たちばな

きゃべつ畑

いちめんの
きゃべつ畑のなかを
わらいながら
はしっていく、あなたと
わたしと
泥だらけになって
くつもぬげて
スカートをらんぼうにつかんで
ほどいて、棄ててしまった
タフタのリボンは
ひめいをあげなかった

とおくとおくまで、ずっと
土匂うひなたと
紋黄がなめる水、そのあまさ
もうじきにうみおとされる
とうめいの卵はやがて
破かれ、食まれ
おいてゆかれるのだから
パパがいう、わたしたちの
たいせつのベッドとは、きっと
ちがうわ
――あ、またちょうちょ
いちめんの
きゃべつ畑のなかを
はしっていく
あなたとわたしと

じゃれあうみたいに
こどもみたいに
ほんとうは、ちっとも
わらいたくなんかないのにね

時の外の光跡

十夏光

（何もかもから見放されている眠りが明るい日の下に降りてきて……）

何もかもから見放されている眠りが明るい日の下に降りてきて
もろい光の帯を戴いた紫陽花（あじさい）の
しろい　しずかな花のひらきを抱きしめている
やさしい
やさしい火のすがたがたちまちにあたりを流れて
光年のかなたまでわたしをつないでいく
かすかな愛のふれあいが
蘇りのときを告げている
雲たちの穏やかな動きのうしろで
鉄条網（てつじょうもう）の足もとで
まばたきのあいだで

ひそかに匿われていたものたちに
言葉にはされない合図が送られる
飛翔のときだ
狂気の風にいたぶられてどこまでも舞い踊っていく羽ばたきが
描いた夢のなかで
息をしている
命よ

鴉取和樹

神よ、此の人を守り給え

エゝ時は一八九六年、長きに渡るお江戸の時代も今となっては昔の話。明治になって二十余年も経ちますれば、鉄道はガタリゴトリと煙を吐いてひた走り、牛だ麺麭(ぱん)だ麦酒(びいる)だなんだと西洋かぶれの食べ物が、いつしか何の気負いもなく胃袋にストンと収まるものでございます。

因循姑息の音もしなくなり、通り一面ザンギリ頭の音符が並んで文明開化の大合奏。洒落た殿方はスリイピイスに身を包み、見目麗しい娘さんらは素敵なドレスを、とキッパリ言い切りたい所ですが、残念ながらドレスを御召になるのはせいぜい華族の息女がやっと。お嬢さん方の洋装の普及にはちょいと時間が掛かりそうな気配をさせつつも、若く豊かな黒髪の上には、いつの間にかリボンがちゃっかりと乗っかっているのでした。

扨(さて)。そんな都会の街並みに圧倒されながら突っ立っているのが、今年十三なったばかりの蔭山七之助という男。呆けた面構えと古びた服で如何にも田舎のお上りさんといった体ではありますが、見かけに騙されちゃあいけません。いえ、見た目の通り貧乏農家の倅(せがれ)というのは確かですが、何せ大層頭が良かった。

地元の尋常小学校でそいつはもう優秀な成績を収めたものですから、師範学校に行かせるのすら勿体無いと教師と校長が一致団結。ツテのツテのコネのツテを辿り抜いた結果、地元から遠く離れた然るお屋敷に書生として住まわせてもらうことになったのです。

あまりの若さゆえ周囲から不安の声が上

がったものの、やはりいつの世にも天才というものは居るようで、中学校を難なく主席で合格すると、試しに受けた高等中学校にもサラリと進み、当然の如く帝国大学へと入学した後、見事教授先生と相成りました。

　エゝ何です、トン〳〵拍子に行き過ぎじゃあないかって？　そりゃまた当然の事をお言いなさる。浅野内匠頭より忠臣蔵、牛若丸より勧進帳の方が盛り上がるってのが世の通りというもんで。

　つまり何が言いたいかってぇと、こんなものは序章も序章。多少の苦難に直面してからが、ようやく話の本番という訳です。

　順風満帆に見えた七之助だが、こと色恋沙汰となると勝手が違った。何せ惚れた相手は書生先の愛娘、そして惚れられた相手もその娘さんときたもんだ。やれ自由恋愛とやらが西洋諸国では蔓延(はびこ)り始めたようですが、東洋の島国にゃあ大して伝わりすらしてねえ時代だ。山盛りの恩を更にもう一山の仇で返してどうすると、旦那様への感謝を胸に必死に想いを抑え殺して脇目も振らず勉学に傾注したが、まさかのそいつが間違いだった。

　何が間違いかって、そりゃさっきの成功譚を聞いてりゃ分かるでしょう。なにせこの時分に高等中学から帝国大学に進むなんて、七之助みたいな一部の例外を除けば家柄にも頭にも恵まれた上流階級(エリイト)ばかり。先輩級友後輩に至るまで、みぃんな官僚様やお医者先生になっちまったせいで並の人脈じゃケチのつけようが無くなったうえ、その中でも指折りの頭脳にまで登り詰めたとあっちゃ、「お前にはもっといい男(ひと)がいるよ」と娘を説得してしまったお父様が可哀想だ。まさか七之助の知恵を頼って訪れた殿方を、「彼は優秀だから」

と娘に言うわけにもいきませんもの。

家柄自体はカスっぱちだが稼ぎもあるしコネもある。なおかつ才知に富んで、見目も然程悪くはなく、人柄は十二分にお墨付き。それでも諦めきれないお父様は方々を駆けずり回って相手を探したが、残念ながらと言うべきか七之助のほうが一回りも二回りも優秀だったし、ようやく傑士を見付けても、そちらにはもっと良い縁談が舞い込んでるという次第だった。

結局最後は奥方様の鶴の一声、更には兄様姉様からの「行き遅れにでもさせる気か」という援護射撃もありまして、晴れて目出度く結婚の運びとなったのですが、あゝ神様というのは随分と残酷な事をなさる。結婚から僅か数年後、若嫁は突然パタッと倒れ、二度と帰ってくる事はありませんでした。

お手本みたいにコロッと綺麗に逝ったものですから頬の赤みを除けば生前そのままの見た目をしておりまして、誰一人としてこの美しい娘っ子がもう生きてはいないなどと信じることは出来ませんでした。官費留学から転がるように帰国したものの、死に目にも葬儀にも立ち会えなかった七之助なんかは尚更で、まるで白痴にでも為ったかのように「起きてください、夕餉のお時間ですよ」なんて墓石に向かって語り掛けたものです。

行き成りの訃報は余程応えたようで、七之助の悲嘆は連日連夜止まることなく、四十九日の経を聞いてる時でさえ声も挙げずにただハラハラと涙を零し続けておりました。心が壊れてしまった様に泣いているその姿が、あんまりにもお可哀そうでお労しいものですから、七之助と交流のあった者全てが、彼がこのまま後を追うのではないかと憂えるほどでありました。

柾千樫

ぼんぼり通り

ぼんぼり通り
そこにあり
教室まだらとうすぐらく
笑うこえ笑うこえ
やかましく床をすべり
ゆく
掃除用具のいりぐちや
ふるびた通学鞄のでぐち
いきをひそめて窓むかい
みえる
糸をひいたら

ちんとんしゃん

ぼんぼり通りはしかくいか
まるいかはたまたさんかくか
おんなじものは
ひとつもない
ひとっつもないがひとつだけ
ぼんぼり通りは継ぎ目なし

あかいぼんぼり
みつけたら
あおいぼんぼり
まっている
あおいぼんぼり
みつけたら

しろいぼんぼり
まっている
しろいぼんぼり
みつけたら
なにいろぼんぼり
あるだろう

継ぎ目はないが
糸はあり
ぼんぼり通りのはしっこに
のぞいている
ぴょっとのぞく
だらだらつづくぼんぼりの
いろとりどりの真夜中の
ただなかにあるはしっこを

あかつき 第一号

2020 年 2 月 4 日　第 1 刷発行

発行元　千柩堂
https://chikyudo.org
masakichikashi@chikyudo.org
Twitter » @masakichikashi

装幀・編集　柾千樫
表紙写真　Fré Sonneveld(@fresonneveld) on Unsplash
印刷・製本　ちょ古っ都製本工房

Printed in Japan

N.D.C.911　102P　71mm

本書の無断転載・複写・オークションやフリマアプリ等への出品はご遠慮願います。
乱丁・落丁は在庫の限りお取替えいたします。発行元宛までご連絡ください。

［余白］天 54mm 地 24mm ノド 19.75mm 小口 14mm ［フォント］貂明朝テキスト ［本文級数］13Q ［本文行間］13H ［組版ソフト］Adobe InDesign CC 2019 ［表使用紙］アラベール スノーホワイト 160kg（マット PP 加工）［本文用紙］アドニスラフ〈75〉65.5kg